

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 (ユニット2)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0170200885), 法人名 (有限会社 エイチ・ティ・エス), 事業所名 (ハーモニー さくら さくらんぼ 2F), 所在地 (札幌市北区新琴似6条14丁目8-23), 自己評価作成日 (令和4年1月9日), 評価結果市町村受理日 (令和4年3月16日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 基本情報リンク先URL (www.kaigokensaku.mhlw.go.jp)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和4年1月26日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中 感染防止対策を徹底して行い、今までの生活スタイルとは少し変わってきておりますが、利用者様一人ひとりが生き生きと安全・笑顔でストレスが少しでも少なくなる日常生活が過ごせるように、日々 職員は色々な面を工夫しアイデアを出し合い、日々の生活の中で共に楽しみながら、心の通う介護支援に努めております。スタッフ間のチームワークも大変よく、協力 支えあいながら利用者様の情報を共有し、柔軟な対応が出来る様に努めております。今はご家族様との面会制限はありますが、昨今の社会情勢の中で、短い期間でも面会日を設けたり、オンライン・電話・ハガキと…ご家族とご利用者様の心がつながる様に努めております。ホームからも細かに様子をお伝えさせて頂き、安心していただけるようにしています。書面での運営推進会議や町内会・包括支援センターとも電話等お話 情報交換し関係性を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市北区新琴似に位置し、西野屯田通り沿いの住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には、コンビニエンスストアや飲食店などの店舗もあり利便性が高い地区である。法人は、介護保険制度が始まった翌年の2001年に設立し、認知症高齢者のグループホーム2カ所と共用型デイサービス、小規模多機能ホームも2カ所運営するなど札幌市を中心に留萌地区にも事業所があり、他にヨーグルト食品の開発やイベントの企画運営なども手掛けている。ホーム内は1ユニット6人の2ユニットで、今後増床を予定している。事業所の理念は、「人にやさしく」として個人の尊重・笑顔・日々楽しくとあり、コロナ禍により自粛されているものもあるが、除雪などで地域の支援もあり明るい感じのホームである。日々気付いた点があれば、その場でカンファレンスをして実行するなどケアに徹底して取り組んでおり、認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement (取組の成果), and Result (取組の成果). Rows 56-62 show various service outcomes and their evaluation results.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナの関係でミーティング等は少なくなりましたが、玄関前に理念を掲示し共有できるようにしている。会話の中で理念の話が出てくることもあり、しっかり共有していると考える。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	書面での運営推進会議、町内会との交流・移動販売車を利用している。冬になると、町内会で除雪で2、3回入って下さる。コロナではあるものの、地域・町内会との交流はあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方で認知症のこと等で、ご相談に見えられたり電話くることがあり、事例をあげながらお話することがある。いつでも連絡してもらえる声掛けをし体制をととのえている。。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組	現在は書面で運営推進会議を行っており、感謝・意見・質問等頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・区の担当者と常に情報交換したり・意見を伺いサービスの向上に努めています。分からないことは担当者にメール・電話等で相談させてもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を3か月に1回行い、身体拘束についての研修も行い、身体拘束を行わないケアをしている。新入社員が入ったときは、オリエンテーションを行っている。行動制限がないよう日頃から見守り対応行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても同様に内部研修を行い、虐待防止ケアに取り組んでいる。新入社員が入ったときはオリエンテーションをおこなっている。スタッフがストレスを溜めない、相談出来るひらかれた環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員研修・内部研修で権利擁護について学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族に説明 ご理解や質問を受けて納得されてからご契約いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・電話・メール等でご意見や要望を聞いて直ぐ対応できる様にしている。スタッフにも周知し対応できる様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回以上管理者ないし総務担当との面談の場を持ち意見や提案を言える機会を設けている。日々、スタッフの意見や提案が出た時は必要に応じて会社へ相談するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考査を取り入れたり、職員の能力・健康状態をふまえ、勤務時間や業務の配置転換等を柔軟に対応できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内部研修や外部研修(リモート)を受けられる機会や環境作りに努めています。必要に応じて個人へ助言や工夫等を一緒に考える事がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今はコロナの感染対策上、なかなか同業者や外部の方との交流は行えていない現状ですが、メール・電話等で、近況を共有することもある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にご本人面談を行ったり、ご家族やケアマネ・他のサービスを受けている所からの情報を収集し良好な関係を作れるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の際に、ご家族・要望を聞き入れながら対応している。入居後もこまめに不安や要望にお答えしたり、入居後の生活の様子を報告して安心して頂いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応、1か月くらいはスタッフ全員で ご本人の言った言葉を書きとめて、情報を共有し優先順位を考えてサービスを開始しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、出来ること・出来ない事を見極め出来ない事を支援し良好な関係性を築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナかの中、中々 面会も出来ないが、手作り葉書を作成投函したり、オンラインで面会や電話でのお話等いろいろ工夫し対応し安心してもらっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	コロナの落ち着きによっては、短い期間や時間ではあるが面会支援や通園支援の再開を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の性格を考慮、関係性を築きながらも 時としてスタッフが間に入ったり・席替えをするなど工夫をし良好な関係を保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方にも、必要に応じて継続し連絡・電話相談・アフターフォローを努めています。いつでも相談できる環境作り、スタッフへの周知をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を考慮し、ADL、その時の表情や言動から思いや意向をくみ取り本人らしさが持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らし方を本人や家族に聞いて、生活歴の把握に努めている。過去の職業や趣味がホームでの活動に繋げていけるよう検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の様子、特にご本人の言葉は記入するようにし、心身状況や特変を申し送りスタッフ全員が把握・羞恥し支援につなげています。報連相をしっかりと行うよう心かけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアのあり方について医師・看護師の助言を受け、カンファレンス モニタリングを行いスタッフの意見も反映できるようにしている。必要に応じて介護計画を更新しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子・支援内容を記入している。特変時の様子は詳しく記入しスタッフ間で情報共有出来る様に申し送りを徹底しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意向を大切に、突発的な事柄に対してもチームで柔軟な支援を行う様にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナのため極力中止している現状ですが、コロナの人数が減ってきたときには、スタッフ付き添いで感染に留意し美容室等に出かけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の状態を記録し医師に報告出来るようにしている。月2回のかかりつけ医の往診や外部受診の支援を行い適切な健康管理が受けられています。必要に応じて臨時往診してもらっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気になる点、変化を都度報告・相談し必要に応じて点滴等も行っている。変化時には24時間連絡可能な協力医療機関も確保しており、いつでも相談できる状況である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供し、退院時は医療機関とホームで出来ることを話し合い連携できるように努めています。また、スタッフにも現状がわかるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期には、早い段階で往診医、ご家族、ホームで話し合い方針を決めて、ご家族の意向を尊重しながらホームで出来ることをスタッフ共有し支援しています。終末期の看取り対応を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応や事故発生時についての話し合いやマニュアル化、研修は行っている。機会あるごとに急変や事故発生の手柄について、ミニカンファレンス等で再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定をもとに、火災避難訓練・地震避難訓練年2回、水害災害訓練行い振り返りし全職員が避難出来る方法を身につけている。運営推進会議にて報告している		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修を実地し自尊心やプライバシーを損ねない言葉使いや接し方に注意し職員間で周知しており、対応できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己決定できる場面が多々ありますので、自己決定を含めてご本人の思いや望むことが出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	申し送りでも利用者様の状況を把握し、その日の体調や希望に沿って支援できる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定も含めて可能な限り、コミュニケーションをとりながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や季節感のある食材を提供し、食事を楽しむことが出来る様にしています。職員や他のご利用者様と一緒に後片付けたり、協力し行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に行う血液検査のデーター医療面からのアプローチを含め食事量・水分量を把握し各個人の状況に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診を利用し歯科医師よりアドバイスを受けています。また、口腔ケアの研修も行い口腔内の清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの自立した排泄に繋がる支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を職員は理解し、飲食物の工夫を常に考えて予防に取り組んでいます		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1人1人の希望やタイミング・生活習慣・体調面を考慮し週2回の入浴支援を行っている。入浴出来ない時は清拭に切り替えるなど柔軟に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や希望時、体調に考慮し常に休息出来る声掛けの促し対応しています。安眠を妨げない様に、生活音・照明に気を付けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の病名・服用している薬の用法等は職員周知しており、服薬変更がある時は支援経過を参照し情報を共有している。時に服薬拒否の方がおりますが工夫した声掛けを共有しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様のADLの違いから出来る事・出来ない事を見極め、出来ないからやらないではなく、出来ない部分をいかに支援して他の方と一緒に楽しむ・笑顔のある支援に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの為に極力外出等は控えておりますが、ホーム内でも取り組める体操・レクレーション・壁面創作に力を入れて、外出支援に変わる方向性で対応しており時々、ホームの外に出て季節感を感じていただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方は、家族より日用品等の購入を預かり金として金銭管理し代行支援を行っている。自分で出来る方も買い過ぎ傾向があるため、職員と相談するかたちで支援できています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の中 面会も中々出来ず創作活動の一環として桜の花の手作りハガキを作成し、自筆で書いてもらい投函し喜んで頂いております。また、オンライン電話の支援をしております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快になる臭いや音・光に気を付けています。四季折々の季節感を感じていただける様に、壁面飾りを一緒に作ることによって感動されたり、居心地がよく笑い声が聞こえる環境作りに努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は自分の席が決まっている事が多いですが、それにこだわらず柔軟に対応できるように支援しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具や寝具を持ち込まれたり、家族や飼っていたペットの写真を飾るなど 本人が居心地よく過ごせる工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様が移動しやすいよう 手すりや空間に配慮している。居室に名札を付ける等工夫をしている。		